

医師を目指す高校生を対象に昨年、県の事業であるドクター・トークという講演を行った。これを聴きに来たある生徒がその後、クリニックに見学に来た。そして後日、医学部合格の吉報が届いた。

地域医療においては医師の人材不足が最も深刻である。これからの医療・介護を支えていくためには、地元で働ける医師の育成が不可欠だ。ところが、医師が不足している地域ほど、医師や医療スタッフの教育に注がれるエネルギーも、残念ながら不十分であることが多い。

妻の実家のあるトルコでも、医療環境の改善が求められ続けてきた。10年以上前に義父が終末期を自宅で過ごした頃は、大規模病院での診察に通えなくなる、あとは家族が一生涯介護するだけで、地域の家庭医が訪問してくれるようなこともなかった。

そのトルコでも、近年は家庭医の地位向上が急速に進んでいる。かつては医学部を卒業してもその後の教育環境が不十分で、他の専門医に比べ、地域医療を支える地域での勤務や家庭

# 「教育」の重要性に理解を

医を目指す医師は少なかった。しかし、現在はヨーロッパの国々に似、地域の中でのプライマリ・ケアの役割を重視し、教育と待遇の改善を図った結

適切な療養や受診のタイミングを理解していただくのが重要になる。

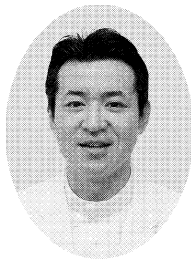
病院に行く目的は薬をもらうことだ、と思われている方も多いかもしれないが、生活習慣病

患者家族にたくさんのことを教えられてきた。終末期の経験は、医師といえども自分が経験することができない事柄を、医療者として携わることで、推測しながら学んでいくしかない。

自身やスタッフをはじめ、協力する医療・介護機関や地域の方々がともに学んでいける環境づくりに重点を置いている。そうすることがすぐに目の前の患者の命を救うことにはならないかもしれない。それでも長い目で見ると地域全体の医療環境を改善し、そのことがより多くの人々の健康と幸福に貢献することにつながればと考えている。

## 小倉 和也

はちのへファミリー  
クリニック院長



おぐら・かずなり  
1972年生まれ。2010年に国内でも珍しい家庭医療の医院を八戸市で開業。国際基督教大、琉球大医学部卒。八戸市出身。

いろいろな意味において、医療には本来、教育という概念が含まれていると考えて良いのではないだろうか。医療に携わることには、教え、教えられ、学び、学ばれる過程を日々繰り返すことと言える。地域の医療を充実させるためには、患者も同様の意識で教育に対し理解を深める必要があるだろう。

果、徐々に志望者も増え、現在では地域の医療全体の底上げが図られていると聞いている。医療においては、普段の診療でも教育という言葉が付いて回る。治療に際しても、病気の正しい知識をいかに上手に伝え、

などにおいては、お薬を処方するよりも、むしろ病気の理解を深め、正しい生活習慣にいかに関心を持っていくかを相談することの方が大切だと言える。診療を通して学び、育つのは、患者だけではない。在宅医療でみとりに携わることで、多くの

訪問看護やケアマネジャーなどのスタッフも同様で、多様な経験を大切に共有し、ともに振り返りながら、未知の経験にいかに関心を持っていくようにしている。開業以来、当院では「医療は教育なり」という理念の下、自分

## 地域医療の充実

# 見創見 Tuesday

果、徐々に志望者も増え、現在では地域の医療全体の底上げが図られていると聞いている。

医療においては、普段の診療でも教育という言葉が付いて回る。治療に際しても、病気の正しい知識をいかに上手に伝え、